

高齢者の交通事故防止対策に関する一考察

—高知県警察の取り組みを中心に—

1230456 小正佳奈

指導教員 中村直人

研究背景

私は高知県警察を受験するにあたり、高知県の交通事故について調べていたところ、交通事故による全死者数のうち高齢者が占める割合が全国で一番高いことに気づいた。私は、命を守り長生きしてほしいという気持ちで、高齢者の交通事故の減少に導くための施策を考えたいと思うに至った。

研究目的

高知県警の行っている交通安全対策や現状を、資料等を通じてその有用性と課題について検討するとともに、今後の求められる取り組みを提案し、高知県に住む高齢者の交通事故防止に貢献する。

研究方法

方法は主に文献調査を用いる。

分析結果

高知県は、高齢者の交通事故死者数の割合が増加しており、高知県の年齢層別人口 10 万人当たりの死者数は、65 歳以上が 8.55 人であり最も多く、高知県の世代別の交通事故死者数 (10 万人当たり) も、65 歳以上が 3.08 人と一番多いことが分かった。以上のことから、高齢者の交通事故防止対策が重要であることがわかった。また、高齢者のなかでも老人クラブへ加入している者は交通事故死者数が少ないことがわかり、その要因として交通安全教室が大きな役割を果たしていると考えられることがわかった。そこで、高齢者の死亡者数の割合、高齢者人口 10 万人当たりの死者数が全国最少である島根県と比較したところ老人クラブ数が約 1.5 倍、会員人数は 2 倍近く多かった。また、島根県全体として交通事故の減少したのは歩行シミュレータが効果的であることが分かった。最後に、交通事故件数の減少として効果がでているのは、技術革新を活用とした安全装置が搭載された車である。搭載されていない車に比べて、交通事故件数が低く、交通事故を防いでいることがわかった。

考察・結論

島根県の高齢者の交通事故死者数が少ない結果に結びついているのは、老人クラブの数と会員数の多いことできめ細かで、より多くの人に教育ができていると推察したことから、高知県でも老人クラブの数と会員数を増やし教育することが重要である。また、歩行シミュレータを活用しさらに推進する必要がある。そして、運転免許自主返納を進めるためにも新たな交通事故対策試察として、技術革新を活かした老人用の自動運転車を開発するとともに海外でも発展しているレベル 4 以上の自動運転車を積極的に導入することが重要である。最後にドライブレコーダを利用して、その人の運転の特徴を分析しその特徴から AI が記憶し、瞬時に反応し、技術革新を利用し事故が起こらないようにデジタル化する必要がある。